



福島県立郡山北工業高等学校

同窓会報

平成11年2月25日

第49号

発行所/〒963-8051

福島県郡山市富久山町八山田字大林1

福島県立郡山北工業高等学校同窓会

☎024(932)1199 024(935)9849

発行者/増子 久治

編集者/熊田 志郎

発行部数/20,000部

印刷/株式会社

1999



CONTENTS

同窓会会長あいさつ.....	2
学校長あいさつ.....	3
平成9年度同窓会定期総会	4.5.6
生徒会だより.....	7
支部だより.....	8
部活動の活躍.....	9
進路指導	10
平成9年度決算報告他	11

同窓会定期総会開催のお知らせ

平成11年度定期総会を下記のように開催いたします。

- 日 時/6月12日(土)午後5時30分より
- 場 所/ホテルはまつ(郡山市虎丸町)
- 会 費/5,000円(平成10年度卒業生は3,000円)

※振込み手数料は各自負担願います。

※詳細については同窓会事務局へお問い合わせください。

同窓会事務局(郡山北工内) TEL (024) 932-1199 FAX (024) 935-9849

多数ご参加下さいますようお願い申し上げます。

会員同志の友愛を



同窓会会長
増子久治

同窓会会員の皆様には、ご健勝にて活躍されている事とお喜び申し上げます。また、平日頃より本同窓会活動にご協力、ご支援いただいている皆様により感謝とお礼申し上げます。

昨年は「寅年は荒れる」の諺通り政治、経済、災害、事件等々全般に亘って大荒れの一年でした。このなかで特に治まるところを知らない不況の嵐は数多くの企業を倒産に追い込み大量の失業者であふれ、今年に入っても景気がいつになたら上向くのか予測すらかない状況であります。

戦後の何も無い時代より国民一丸となり復興に全力を注ぎ驚異の進歩を遂げ経済大国となった日本が貧しかった昔を忘れ虚飾に満ちてバブルのなかで豊かさの尺度を勘違いした結果であろうと思います。

この様に経済環境の厳しいなかにあつても同窓会員の皆様は郡工、郡西工から引継がれて来た伝統とさらに郡北工のチャレンジ精神で頑張っておられる事でしょう。

今年の干支は兎です。兎は下り坂は苦手で上り坂は得意です。景気は是非とも跳ねて上昇していただきたいところです。

卒業され新会員となられた皆様には同窓会を代表し、心から歓迎申し上げます。新会員の皆さんは就職される人、さらに高度

な学力、技術を身につけるため進学される人、進路は変わらうと、本校で学んだ事に誇りと自信を持ち前向きに進んでいただきたい、各所に於いて活動されている先輩会員の皆様が必要になる事でしょう。学校の方へもどると、本校定時制に於いても、今年の募集より普通科となりました。昭和四十年三月機械科十六名の卒業生と電気工事士育成であった短期産業科（二年）修了の八名を送り出して以来、電気科、建設科、工業科と多数の第一線で活躍できる人材を輩出して参りましたが、生徒の減少等により、県教育委員会の方針による前述の通りとなりました。またその生徒達も平成三年に完成する郡山駅西口再開発ビルに入居し、現在のあさか開成高と統合され、郡山北工以外の校名で卒業が予測されます。

永きに亘り続いた実業高校定時制の灯が消えるのは非常に寂しいと同時に現代子供達の考え方に複雑な気持ちです。

またあとひとつ悲しいのは、三十数年同窓会事務局長をつとめ顧問をお願いしておりました広江力男氏が一月四日逝去されました。広江氏は同窓会の顔的存在であり残念ですが、ご冥福をお祈り申し上げます。

前年会報にて一般会員の皆様へ同窓会に対する寄付金をお願いを致しましたところ

多くの皆様より寄付をいただきました。誠にありがとうございました。大事に使わせていただき、一人でも多くの会員の元へ会報が届くよう努力をしております。

本年は二十世紀最後の年であります。この一年間悔いのないよう活動し、新たな気持ちで二十一世紀に挑戦しようと考えております。今後とも同窓会へ熱きご支援お願いし結びといたします。

郡山北工高 同窓会会長

増子久治

甲 広江 力男氏

甲 広江 力男氏

同窓会初代事務局長の広江力男氏は、平成十一年一月四日病気のため逝去されました。

広江氏は、昭和二十四年度機械科の卒業後母校で教壇に立たれ、平成二年退職されるまで、その間本会事務局長として長年に亘り、大変ご尽力を頂きました。その功績は大いなるものがあり、今日の活動の基礎となっております。

ここに、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

学校長ごあいさつ



校長
猪狩次夫

例年になく穏やかな新春を迎えましたが、北工同窓会会員の皆様には、御壮健にて御活躍のこととお喜び申し上げます。また、日ごろは母校に対しまして物心両面にわたる格別の御支援御協力を賜りまことにありがとうございます。厚くお礼申し上げます。さて、長引く不況はますます深刻になっておりますが、本校にとりましてもその影響が年々強くなりつつあります。すなわち、本年一月末日現在の就職内定率は九〇・四%となっておりますが、これは昨年同期を三・八ポイントも下回っております。(昨年は九四・二%)

これは北工はじまって以来の低率で、まことに憂慮すべき事態といえます。とはいえ、他高校との比較においてはまだまだ恵まれた状況にあることは間違いない。く、これも偏に郡工・西工時代の同窓生をはじめ先輩各位の御活躍そして後輩への温かい御配慮の賜と大変ありがたく衷心より感謝申し上げます次第であります。成熟社会を迎えた今、かつてのような右肩上がりの経済発展は期待できないとしても、卒業生が夢と希望を持ってスタートできるような、まじめに働く者が安心して生活できるような経済社会であって欲しいとは、誰もが願うところでありましょう。一日も早い景気の回復を念じております。一方、上級学校への進学希望者については、四年制大学から専門学校までと志願先も多様であることなど単純には比較できませんが、昨年並の実績、あるいはより以上の成果を確保できたものと喜んでおります。学校の近況につきましては、まずはじめ

に昨年は三年に一度の学校祭「北嶺祭」が開催されました。同窓会やPTA、そしてそれぞれの会員の方々には、いろいろな面で御支援御参加をいただき本当にありがとうございます。一般入場者は二千名弱でしたが、工業高校ならではの公開実習は大変好評だったようで、地域のみならず方に北工を御理解いただく上でも大成功であったと喜んでおります。

また、生徒の活動につきましては、運動関係ではソフトボール部(六年連続)、ソフトテニス部(個人)、スケート部、文化系では機械科生徒が相撲ロボットで全国大会に出場するなどの活躍がありました。いずれも全国のレベルは高く、胸を借りるといふ状況だったようですが、これを機会に一層努力精進し一日も早く全国レベルに近づいてほしいと願っております。他の各部署も地区では大活躍しておりますが、残念ながら県代表には今一步というところで、今後の飛躍を期待しております。いづれにいたしましても、県の中心に位置し県内最大の規模を誇る本校が、本県工業高校のリーダー校となるべく職員生徒一丸となって頑張ってくださいますので、今後とも御支援のほどよろしくお願い申し上げます。

定時制だより

「有終の美を」

定時制教頭 鈴木就吉

日ごろ同窓会の皆様のご支援ご厚情感謝申し上げます。

郡山駅西口再開発ビルに平成十三年四月県立高校が新設することになりました。本校定時制は平成十一年度の入学生から普通科として募集することになりました。現在在籍している工業科の生徒はそのまま残りますが、本校に入学した普通科の生徒は二年後に新設校に統合されます。よって、今在籍の工業科一年生が卒業すると同時に、歴史のある本校定時制は平成十四年三月を持って幕を引くこととなります。

このような状況下でも、生徒達は普段と変わらず、毎日元気に学習に運動に明るく学園生活を送っております。これからの最後の三年間は教職員一同、一致協力して、同窓会の皆さんが今まで築いてきた大切な財産を守るべく、努力したいと思えます。今後とも同窓会の方々のご指導をお願いします。

平成10年度

同窓会定期総会開催

六月六日(土)ホテルはまつ 三階 左近の間
において
左記の様に開催致しました。
午後五時三十五分

一、開会のごとば 宗像俊郎 副会長

二、会長挨拶 増子久治 氏

『素晴らしい母校愛が素晴らしい伝統を作り、素晴らしい伝統が素晴らしい母校をつくる。』

三、学校長挨拶 猪狩次夫 校長

『学校案内を作るにも同窓会の援助を得ている。感謝したい』

平成十年三月環境システム科初の卒業生を送り出し、採用していただいた企業からも歓迎されている。

西口再開発ビルに定時制通信制の高校ができることになって、本校定時制もあと三年で歴史を閉じることになりました。

四、支部長挨拶 水戸支部長 八代正雄氏

『昭和三十四年に創立された水戸支部で三十八年間支部長をなされた山崎氏に代わり、今年より八代氏に交代いたしました。』

五、議長選出 書記任命

『事務局一任』の声により拍手で承認

議長 早川 実氏

五十四年度機械科卒

議長 岩崎 洋一氏

六十一年度建築科卒

六、議事

案件すべて承認されました。

七、閉会のごとば 滝田孝太郎 副会長

続いて感謝状の贈呈

前水戸支部長 山崎 功様 三十八年間

前日立支部長 七海 清様 五年間

以上で定期総会を終了いたしました。



講演会

平成十年度郡山北工業高等学校同窓会総会
平成十年六月六日(土) 一七時三〇分
ホテルはまつ 3F左近の間

記念講演

「東北一の郡山北工高になるまで」

元 郡山工業高等学校長 大原 亨

(テープおこし・編集/関根孝良)

※(大原 亨氏プロフィール)

昭和三十九年 四月 福島工業高校校長

より郡山工業高校校長として赴任

昭和四十六年 三月 退職 のち二年間 充電

昭和四十八〜六十年 千葉県明德学園理事 兼 専任校長

昭和六十年四月〜現在 社団法人全国樺太連盟理事として北方領土返還の仕事に携わっている。

(増子久治同窓会会長による紹介)

1. はじめに

ただいまご紹介をいただきました大原でございます。在職中はごやっかいになりました。平成八年十月二十六日と記憶していますが、創立二十周年の記念式典がございましたときに、現在の学校を初めて拝見いたしました。自分が七年間ごやっかいになつておりましたときには本当に縁の下の力持ちでございました。けれどもあのときの苦労がこういう立派な学校になったという事を思いまして、まことにうれしく存じます。

郡山駅に降りまして、まず一番「ハツ」としましたのは（郡山北行き）というバス停留所が駅を降りた目の前にあるのが見え、それに乗りまして学校に参りました。だいたいどの学校でも門前に停留所というものがあるのが普通なのですが、北工だけは門に入って玄関の脇までバスが入ってくる。（こういう学校は一体県下にあるものだろうか）というように驚きました。これは地元が学校に対するひとつの援助のため、わざわざ玄関先までバスが入っている生徒の登下校に協力してくださっているのかもしれないと思えました。そして学校に入りますと、前庭に郡山工業高校と郡山西工業高校の記念の碑が建てられてあるということにつきまして（ああ、これはひとつの計画を仲良く実行したのだなあ）ということとを私は感じました。

2. 郡山西工業高校ができた理由

ところで私は講演をどう話そうかというところを私に考えて参りました。昭和三十四年十月に教育委員会に入りましてから、それでは使い手がないほど県下高校のいろいろな仕事をさせられました。肩書は指導主事というものでありまして、高校の仕事とか多方面にわたって仕事をさせていたおりました。昭和三十四、三十五年頃までは農業を主体にした農業立国というような声が聞かれていたのでありますが、以後はこの言葉に代わって工業立国というような声が聞かれました。当時の教育長は佐藤先生でございました。教育長は県下の工業高校教育を見渡したとき、浜通りはともかく、「県中・県南の中通りの南の方にひとつ工業高校を作ろう」というので、県南工業高校の建設予算というものをまとめあげて作りしました。（白河に工業高校を

作る）というような計画でした。ところが、折角（予算案を）作って白河の方に建てれば喜んでもらえるだろう」と思ってた白河の市議会にそれを提出しますと、「私の地区にこういうような学校ができると農業学校がすたれてくるのではないかと、いうように思われるから、ありがたけれどお返しするしかない」ということで、折角何億という予算を組んでもが一夜のうちに潰れてしまいました。私は、朝になり行って驚いてしまいました。さらにへどうなるのかと思っていました。さらにへどうなるのかと郡山から出ておられました太田緑子委員が「もし、白河の方で要らないというのでありましたならば、秀瀬市長と私が相談をいたしまして、郡山でお引き受けいたします」というので、その予算が郡山の方にまわることになったのです。これがすなわち郡山西工業高校ができた理由でございます。

3. 郡山工業高校ができた背景

それから、郡山市内にあったもうひとつの県立工業高校を「郡工」と称して参りましたのは、みなさん良くご存じのように戦前の郡山商工学校といまして、商業が主体となっていた学校で、工業というものは機械科と工業化学科の二科だけございました。機械科の方は国鉄の郡山工機部（現在のJR郡山）から援助を得て教育をされていたようです。一方、工業化学科というのは保土ヶ谷化学の方から援助を受けて教育をしていたのであります。戦争中に保土ヶ谷化学の実験場が爆撃を受けてしまっただけから教育を受ける機会が機械科だけになってしまいました。

ところで、商工学校の脇の方に機械科と工業化学科があつて、そこから工場の方に行つて実習などの授業をしていたのですが（爆撃を受けて工場がなくなつてしまつたので）工業化学科が思うように実験実習というものをさせていたたくわけにいかなくなつてしまいました。そういうわけで（工業高校というものが郡山から消えてしまうのではなからうか）という心配から、「郡山工業高校期成同盟会」というものができまして、なんとか工業教育を続けていってやらおう、ということで大変ご協力をいただいていたようでございます。

商業高校の方は、すでに県立となつていたので、残されたのは工業の機械科と工業化学科でしたから、これを何とか育てていかなければならない。その期成同盟の盟君をなさつておられました今泉さんが、あの桃見台のところに九百坪の土地を無償で寄付なされましたので、そのところに校舎を作つて学校ができあがりました。

そういうようなことで（昭和三十八年に）西工業高校ができ、昭和二十四年にはやがて県立になつた郡山工業高校が桃見台にできたのです。ついに二つの学校が郡山にできあがつたのでございます。

4. 合併問題の出発点

私は、良く全国のいろんな会議や文部省の会議があつて出ていきますと、（人口十万人位の一つの都市に、県立工業高校が二つあるというのは他に例を見ないことである）と、時々聞かえてまいりました。時を同じくしまして、郡山が新産都市に指定されましたものですから、その学校の内容がらしますと、一人前になつてから工業学校が二つあるというのであれば、その「二つの学校をあわせて大きな学校を作つていい」と考えておられたのが大槻教育長さんであります。

その教育長さんは体の弱い人でありましたから、だいたいご病気が重いという噂になつておりました。お見舞いに行かなくてはならないと思つていた矢先に「……」。ちよつと私は県庁から福島工業高校の方に参りまして、「ちよつと病院の方から参りましたか」というので、学校の方からお見舞いかたが参りますと、面会謝絶ということになつておりましたが、お部屋に伺つたのです。面会謝絶ということになつておりましたから、入つていけませんので、また医務室の方に戻つていって「お呼びがありましたのでお部屋の方に入つていってよろしいでしょうか」とお伺いしました。すると看護婦がまいります「奥様も『会いたい』と申しているので中に入つてもらいたい」というので入りました。お顔を拝見するというと、亡くなる寸前でございますから、もうだいたいお病気がなくなつて、病気が重いということを私は直感いたしました。それで、こういう所でお話を承つていいものかどうか、奥様を通して伺いますと「こちらから呼んだのであるからかまわない」というので、看護婦さんと奥様の二人が身体を支えてベッドの上に取りかからせて何をお話になるかというので、「鮫島次長があなたに『福島工業高校から郡山工業高校に行つてもらいたい』ということとを、かくも私の口から言えないから、どうか教育長さんから直接言つてもらいたい」と、そういうことを言われたのであなたを呼んだのだ」というのです。「何でございませうか」と言いましたが、話しが面白いものから、吸い口（水が入つたもの）を口に含ませて水を通しました。それで何をお話になつたかというので、「郡山に二つの工業学校があるが、その工業学校を一緒にして大きな学校を作り、新産都市にふさわしい学校を作りたい」というのである。

5. 合併問題への反発

ところがこの二つの学校を合わせるという事はなかなか容易でないことです。しかし、「西工業高校には、あなたが福島工業高校と一緒に仕事をした教頭の守谷さんをお勧めして校長になって行かれたんだから、あなたの言うことなら何でも聞いてくれるだろう。だから、どうか二人で一つの学校を作ってこられたい」というようなことで郡山工業高校に参りました。行ってみると早速歓迎されました。本席に元同窓会長渡邊さんがおいでになっていますが、多くの優秀な卒業生の方々が歓迎会を開いてくれました。そこで「どうぞ挨拶をお願いします」というと、「ロクな校長が来てくれた。折角ここまで来て、これから厄介じゃないか」というようなことで反対されてしまいました。

それから西工業高校の守谷さんも、「折角校長になって(きたのに)、途中から合併するというようなことは、近所の方からも文句が来るということで、容易なことではございません」というわけで、こちらからも反対されました。(両方から)反対され、まことに容易でないものですから、やはりここは直に取めなくてはならぬと考え、結局、片方は郡工として六千坪くらいの土地を何とかして増やさなくてはならぬと、周辺の土地を二千坪ほど買い増して、総面積八千坪の規模になりました。しかし、高等学校の良しとする面積は一万坪でございますから、なお一千坪ほど足りないのです。だからへどうしても合併する、というのであれば、桃見台の地に鉄筋4階建てを作って、なるべく建坪を少なく、立体的にして生徒を収容し、運動などに支障のないようにしていきたいと思ひまして努力をいたしました。

6. 30000坪の根拠

けれど、私の定年も間近になってまいりまして、この仕事の跡を継いでくれるひとをこちらからお願いしなければならぬというので、福島守谷さんのあとに教頭になつてこられた齋藤重千代さん(この方はなかなかやり手の方で、その当時すでに二本松の校長をやっておりました)を郡山工業高校に差し向けて私と交代を致したいという事になりました。齋藤先生には「だいたいこの整地と面積というものを一万坪で我慢しなくちゃならない」というようなことをお話ししましたところ、齋藤先生といふのは非常に大まかな数学の先生でございましたから、「二万坪、二万坪で駄目ですよ。校舎敷地が一万坪、それから野球・サッカーなどを十分に活躍させるためには三万坪の土地がなくてはならない」ということで、「三万坪」といういきなり大きな問題を出されたわけでありました。

私はその年に辞めまして千葉に戻りましたが、以上のようないきさつで三万坪の土地が現在の所にできたわけでございます。

7. 木村知事に感謝

今は亡くなられて、四倉の駅近くに天国で休んでおられますが、私がしばしば郷里の双葉にもどるたびに、車窓から木村知事さんのお墓の方に合掌いたしました。朝夕、行く時帰るとき、車窓から敬意を表しております。

あの三万坪がなければ現在の郡山北工業高等学校というのではできなかったのではないかと、こう思います。先程ロビーにて泉田先生からもちよつとお伺いしましたが、米沢工業高校がだいたい郡山北工業高等学校に匹敵するような学校が建つたようです。あとは仙台に参りましたもそれほどの敷地を持つている学校、設備を持つている学校

は他にございません。まさに郡山北工業高等学校は東北切つての工業高校ではなからうかと思ふのであります。

8. 同窓生の思い入れ

さて、先程校長先生から現在の状況について伺いましたけれど、何とか東北一を指して私どもが陰の努力をしたものですか、職員と上の方で考えましても、同窓会のお力添えがなければ、どこかの学校でもそうですが、伸びるものではないと思います。どうか一万余千名の方々がこぞつて側面から協力いただいで、もつともつとりつばな学校にされていただきたい。私は側面から千葉で願っているものでございます。

二十周年の時に、当時の校長に「先生が最も年長者でいらつしやるから乾杯の音頭をお願いします」と言われ、「ではお受けいたします。」と言つた瞬間に、何が頭に残つたかといふと、「本当に立派な学校になりました。けれども、どういふふうにしてきた学校であるのか、その過程においていろいろとご苦労様であつた人もおりました。郡工というものに対して立派に貢献なさつていらっしゃる先達もおります。」そんなことを脳裏に思い描きました。ここで、そういう先輩の話もしてみたいと思ひます。

桃見台に格技室を作ることになりました。格技室というのは柔道、剣道を体育で教えるための建物なんです、それを県の方で「作つてくれ」というものでありますから、敷地の南側の方に校舎を建てようとする、校の木が四五本どうしてもじゃまで切らなくてはならない。それを「同窓会の方に黙つておいてはいけません。同窓会の方で植えた記念の樹であるから」ということで、お話をしますという、「では、伐採するのであれば神主さん呼んできて祝詞をあ

げ、みんなで大変ご厄介になつたとお礼を述べてからでないと切れない」というので神主さん呼んできて簡単な式をしまして、お祭りみたいな儀式をやつたのであります。元同窓会長の渡邊さんが「自分たちが手入れをしてきた樹を切るのには非常に情けない」と言い、涙ぐんで最期にいわれたときにはへいかに皆さんがそういう気持ちで一緒に過ごしてきたいろんな思い出が樹と共にあそこにあるんだな、これを別なところに持つていったのでは、さて、どうしたものだろうかと、思ひました。しかし、今になってみますと、あの広々とした所に大きな学校を作つたことが、結局現在の郡山北工業高校のシンボルになっているのではないかと、そういうようなことで私は喜んでる次第でございます。

9. おわりに

なにかしゃべつてもらいたいということでしたので以上のようなことを簡単に申し上げて演題に関するお話をさせて頂きました。過去のことを思いやり、また新しい時代になってそれなりの考えを思いやるというのが「温故知新」という中国人の作つた言葉ではなからうか、それが一番いい思い出というようなことであるまいか。そんなことをちよつと時間を頂戴してお話申し上げた次第でございます。

私は十二年ほど前に、勲四等瑞宝章を天皇陛下からいただいた、陛下より「ご苦労でございます」というようなお話をいただいてきました。どういふ理由で章を手にしたのかと申しますと、郡山のことが一番の苦勞でございましたというのを付け加えまして、皆さんと一緒に過ごしたお話を終わりいたします。どうも失礼いたしました。

生徒会だより

生徒会顧問 浜津俊明

今年度の生徒会活動状況について、振り返ってみたいと思います。

四月、四百名の新入生を迎え、今年度がスタートしました。そして五月・六月の高校連県総体では、バレー部・柔道部・水泳部が東北大会、ソフトボール部・ソフトテニス部が全国大会出場を果たしました。

七月、校内体育大会が三日間、晴天に恵まれ、各種目共熱戦が繰り広げられました。夏の高校野球県大会では、四回戦まで駒を進め大変健闘してくれました。

十一月「21世紀のプロローグ」北の大地から」をテーマに、第七回北嶺祭が、二日間盛大に開催されました。各科の展示・各部発表・PTAバザー・パレード等、どの催しも盛況でした。学芸関係では、吹奏楽部のマーチング東北大会出場や、写真部の総合文化祭での最優秀賞、相撲ロボットの全国大会出場など活躍が目立ちました。

十二月、スピードスケート部と、アイスホッケー愛好会が、インターハイの全国大会に出場を果たしました。またスピードスケート部は、国体にも出場をし活躍しました。

北嶺祭での北工生の実力を、来年は更に伸ばしてほしいと願っております。



定時制に来て

定時制生徒会顧問 小関 栄助

今年も卒業生を送る時期を迎えました。卒業生を送るにあたり、同窓会長さんをはじめ役員の方々より温かい言葉を賜りましたこと感謝申し上げます。生徒たちにもその心が十分伝わっていることと思います。

さて、本校生は在籍数八十三名です。卒業生十五名。今年度に入ってから、欠席数が減って毎日なごやかな学校生活を送っています。ただ不況ということもあり、一度職を離れると再就職が難しく、その上、求人票の数も数社。不景気を身にしみて感じています。

部活動ではバレーボール部・柔道個人・テニス部の全国大会出場の栄誉にあずかりました。三年に一度の北嶺祭では、働く生徒・学ぶ生徒の写真展。コンピュータ制御の噴水、保健指導・給食の紹介、イントラネットの学校紹介を発表。しかし、なんといつても機械コースのギターリングが大人気。ゲームのハノイの塔も盛況。生徒たちの準備と後片付けの手際の良さは、流石、職場での経験が生かされました。全日制にはない定時制生徒の力でした。



東京支部

一九九九年が明け、戦後最悪とも言われる長期にわたる景気低迷の中でのスタートとなりました。二十一世紀は、もうすぐ目前です。東京支部（小野寺支部長）におきましては、平成十年、大きな行事等もなく、大過なく年を送ることができました。そこで昨年の主たる諸活動状況の概要を次にあげることになります。

①役員会の開催、②本部同窓会への参加、③関東地区就職者懇談会の出席、④東京福島県人会への参加（小野寺支部長が常任理事に就任）、⑤三役会の開催、⑥その他
これらの種々の会合や活動展開を実施し支部としての役割機能を果たして参りました。
尚、本年は、東京支部総会（六月）が予定されており、それらに向けた役員会（二月予定）の開催を行うこととしています。
今後、一層の会員相互の連携を図り、積極

日立支部

日立支部では恒例の支部総会を六月二十六日（金）に実施しました。当日は学校側から猪狩校長先生、熊田先生、同窓会本部から増子会長、滝田副会長、水戸支部から八代支部長、舞木氏、東京支部から小野寺支部長をお招きし、また、平成十年に日立支部の新会員となられた三浦君、松本君の両名の新会員の歓迎会を兼ねて盛大に行いました。

本総会には多数の会員に参加頂き、第一部の総会では日立支部の一年間の経過報告を行い、第二部の懇親会では来賓の方々よりあたたかいご祝辞を戴いた後に、宴会を行いました。
宴会の中では新入会員の紹介も行い、母校や故郷の話などで大変盛りあがることのできました。

又、長年に亘り日立支部の副会長職をお願いしておりました新田氏が昨年（平成十年）十月に定年退職されました。氏の今後の活躍を祈念し関係者多数出席のもと、二月十二日に歓送会を実施致しました。
今年度は企業を取巻く社会環境が厳しく、同窓会にもこの影響があり満足な活動が出来なかつたことは非常に残念でなりません。来年度こそは景気を少しでも回復させ活力ある

水戸支部

同窓会活動が展開できるようにしたいものです。
日立支部はこんな時こそ学校側、同窓会本部との連携を密にし更なる発展となるよう尽くしたいと思えます。
日立支部長 荒木

新年あけましておめでとうございます。
水戸支部の平成十年度と十一年度の行事を報告致します。

・平成十年四月に水戸支部長山崎さんが定年のため、交替（水戸支部創立以来初代山崎会長から八代会長に交替）した。
・平成十年六月六日の本部同窓会総会に三名出席（山崎前支部長、八木支部長、三瓶副支部長）した。
・平成十年六月二十六日の日立支部総会に二名出席（八代支部長、舞木副支部長）した。
・平成十一年十二月に水戸支部創立四十年を迎えるにあたり、四十周年記念誌発行計画・立案・作成のため、各プロック（水戸、那珂、佐和、東海、日立工機、県庁）より一〜二名選出し、今年十二月に水戸支部総会と四十周年記念誌を発行する予定になっております。
水戸支部長 八代

営業品目

火災報知設備・構内交換電話設備・消火設備・防火排煙設備・非常用放送設備・テレビ共聴設備
消化器・防犯設備・以上に附帯する一切の業務

田村通信防災工業株式会社

代表取締役 増子久治 (昭和42年度電気科卒)

郡山市安積町荒井字下北井前4-1

☎(024)945-2882(代) FAX(024)946-2875

甲 橋谷田義文氏

本校機械科職員の橋谷田義文先生は、平成十年七月不慮の事故のため三十一歳の若さでご逝去されました。

橋谷田先生は、平成六年四月埼玉工業高校より着任され、本校ではクラス担任、生徒指導部副部長、山岳部顧問として活躍されました。

ここに、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

平成10年度部活動 大会成績報告

<全日制>

野球部

・第50回春季県大会……………2回戦進出

バレーボール部

・第44回県高等学校体育大会……………第2位

サッカー部

・第44回県高等学校体育大会……………出場

バスケットボール部

・第44回県高等学校体育大会……………出場

卓球部

・第44回県高等学校体育大会
 学校対抗……………ベスト8
 シングルス 柳沼……………4回戦進出
 増子・松本……………3回戦進出
 ダブルス 柳沼・渡辺・増子・遠藤……………3回戦進出
 ・第51回福島県総合体育大会
 学校対抗……………ベスト8
 シングルス 柳沼・渡辺……………ベスト32
 ・第37回県高等学校新人大会
 学校対抗……………ベスト8
 ダブルス 矢吹・松本……………2回戦進出
 シングルス 松本・遠藤……………ベスト32
 渡部・吉田……………3回戦進出
 矢吹・大河原……………2回戦進出

柔道部

・第44回県高等学校体育大会
 男子団体……………出場
 男子個人 81kg以下級 橋本大英……………準優勝
 100kg超級 佐藤大地……………出場
 90kg以下級 平澤和広……………出場
 ・第48回東北高等学校柔道大会
 男子個人 81kg以下級 橋本大英……………2回戦進出
 ・第51回福島県総合体育大会
 男子個人 81kg以下級 橋本大英……………第3位
 66kg以下級 吉田将也……………ベスト32
 ・第38回県高等学校新人大会
 男子個人 90kg級 平澤和広……………ベスト8
 吉田英徳……………ベスト16
 女子団体……………出場
 女子個人 78kg級 荒川和美……………ベスト8
 63kg級 佐藤 愛……………ベスト8

弓道部

・第44回福島県高等学校体育大会……………優勝
 男子団体……………出場
 男子個人 安田 敬……………準決勝進出
 3名……………出場
 2名……………出場
 女子個人……………出場
 ・第51回福島県総合体育大会
 近的競技……………第7位
 男子団体……………出場
 女子団体……………出場
 遠的競技……………第1位
 男子団体……………出場
 女子団体……………出場

男子個人 坪井……………第2位
 山口……………第6位
 総合成績 男子団体……………第3位
 ・第36回県高等学校新人体育大会
 女子個人 渡辺……………決勝進出
 男子個人 坪井……………第3位
 女子団体……………出場
 男子団体……………ベスト8

陸上部

・第44回県高等学校体育大会……………出場
 100M 佐藤章仁……………第3位
 200M 佐藤章仁……………第4位

ソフトテニス部

・第44回県高等学校体育大会
 男子団体……………第3位
 男子個人 佐久間・寺尾……………第3位
 (インターハイ出場)
 女子団体……………出場

ハンドボール部

・第44回県高等学校体育大会……………出場

ラグビー部

・第51回県総合体育大会少年の部……………出場

バドミントン部

・第44回県高等学校体育大会
 男子学校対抗……………ベスト16
 男子ダブルス 伊藤・今野……………ベスト16
 橋本・橋本……………ベスト16
 男子シングルス 伊藤貴弘……………ベスト16
 橋本友明……………3回戦進出
 橋本博昭……………2回戦進出
 ・第51回県総合体育大会
 男子ダブルス 伊藤・今野……………3回戦進出
 橋本・橋本……………2回戦進出
 男子シングルス 伊藤貴弘……………準々決勝進出
 加藤一彦……………2回戦進出
 女子シングルス 大和田麻里子……………出場

山岳部

・第44回県高等学校体育大会……………出場

ソフトボール部

・第44回県高等学校体育大会……………優勝
 ・第24回東北高等学校男子選手権大会……………第3位

硬式テニス愛好会

・第44回県高等学校体育大会
 男子学校対抗……………出場
 男子ダブルス 佐藤・市毛……………2回戦進出
 ・第51回県総合体育大会
 男子II部シングルス 増戸・吉田……………出場
 男子II部ダブルス 吉田・増戸……………ベスト32

<定時制>

ソフトテニス部

・平成10年度全国定・通体育大会
 団体戦……………出場
 個人戦……………出場

バレーボール部

・平成10年度全国定・通体育大会……………出場

柔道部

・平成10年度全国定・通体育大会
 団体戦……………出場
 個人戦 重量級 富塚一也……………出場
 中量級 渡部 彰……………出場
 軽量級 渡辺利之……………出場

我がデジタルワールドに不可能はない。

デジタル・デザインの応用分野は、印刷以外にも生かれます。例えば、インターネットのホームページ制作やCD-ROM制作を通して、マルチメディア社会のあらゆる媒体制作プログラムとして活躍したいと考えます。

印刷機材総合販売・デジタル製版・マルチメディア関連事業
株式会社ヨシダコーポレーション
 YOSHIDA ■ 本社 / 〒963-0724 郡山市田村町上行合字北川田22-1
 TEL 0249 (42)0005 FAX 0249 (42)2233
 URL <http://www.media-yoshida.co.jp/yc>

手造りみそ
 味噌販売開始しました

通信販売のご注文・お問い合わせ先
 社名 株式会社ヨシダ
 製造工場 福島県白河郡原町村大字新橋字中野
 販売部署 福島県郡山市田村町上行合字北川田22-1
 TEL 0249(42)1101
 FAX 0249(42)2233

水と空気と人間。
 都市環境の快適空間づくり
 —それが私たちのテーマです。

取締役社長 先崎 一郎 (昭和31年度機械科卒)

TEP 株式会社
東北エンタープライズ

本社 / 福島県郡山市開成4-8-15 〒963-8851 TEL024-933-2555(9) FAX024-923-2555
 仙台支店 / 仙台市青葉区宮町4-2-22(9) 〒980-0004 TEL022-265-8333(9) FAX022-265-6395
 空気調和設備、給排水衛生設備、防災設備、汚水浄化設備の設計・施工・保守管理・リニューアル

平成10年度 進路内定状況

10.1.31現在
()は女子内数

科	機械	電気	電子	情報	建築	環境	化工	合計	
在籍数	77(1)	70	40(1)	41(9)	40(11)	35(2)	72(21)	375(45)	
就職内定数	県内	25	32	11(1)	16(4)	7(2)	19(1)	146(16)	
	県外	11	11	4	2	2(1)	4	42(3)	
	公務員	0	3	0	0	1	0	5	
	留/留級	1	2	1	0	7(2)	2	15(2)	
計	37	48	16(1)	18(4)	17(5)	25(1)	47(10)	208(21)	
進学者数	大学	8	3	5	2	6(2)	3(1)	2(1)	29(4)
	短大	1	0	0	0	1(1)	0	2(2)	4(3)
	準大学	3	0	0	0	3	1	0	7
	訓練校	5(1)	3	1	0	2(1)	0	2	13(2)
	専門	16	7	14	14(3)	8(2)	4	10(3)	73(8)
	計	33(1)	13	20	16(3)	20(6)	8(1)	16(6)	126(17)
就職希望者	40	54	18(1)	22(5)	18(5)	26(1)	52(13)	230(25)	
進学希望者	35(1)	14	22	19(4)	21(6)	8(1)	18(8)	137(20)	
進路不定者	2	2	0	0	1	1	2	8	
合計	77(1)	70	40(1)	41(9)	40(11)	35(2)	72(21)	375(45)	

進路指導

不況の嵐の中で

進路指導主任 高久田 稔

日本の経済不況は回復の兆しを見せないまま、七月一日の求人開始の日を迎えました。求人開始初日の来校企業は、昨年度二十四社でしたので、本年度も同数位かと待ちかまえて居りましたが、午前中一社、午後三社の合計四社の来校しか無く、あまりの激変に前途多難を覚悟しました。県外はともかく、県内企業の求人の出足は例年に無く遅く、反面生徒の希望は県内企業に集中して居りましたので一時は求人票を奪い合う騒

ぎになりましたが、幸いにも後半になって求人企業数も増加し県内、県外共昨年度を多少下廻る程度の求人数となり就職先を選定する事が出来ました。昨年度過去最大数を記録した大学進学者数は不況の嵐の直撃を受け、経済的理由で進学を断念する生徒がかなりの数となり、昨年度を下廻ってしまいました。来年度は就職にしろ、進学にしろ、希望と夢に溢れた進路を変えたり、断念したりしなければならぬ生徒が出ないよう早急な日本経済の回復を切に期待します。

大学・短期大学合格者数

大学・学部名	クラス	人数
いわき明星大学機械	機械科	1
八戸工業大学エネルギー	電子科	1
八戸工業大学土木工学	環境科	1
八戸工業大学電気電子	電子科	1
北海道情報大学通信教育	化学工学科	1
国際武道大学武道	機械科	1
岡山理科大学理学部応用物理学科	化学工学科	1
日本大学工学部工業化学	環境システム科	1
日本大学工学部建築学科	建築科	4
	環境システム科	1
日本大学工学部情報工学	情報技術科	2
日本大学工学部機械工学	機械科	6
日本大学工学部電気電子工学	電気科	3
	電子科	1
東京女子体育大学体育学科	化学工学科	1
東京電機大学電気電子工学	電子科	1
東北工業大学建築学科	建築科	1
東北工業大学電子工学	電気科	1
東海大学工学部生産機械	機械科	1
湘南工科大学電気工学	電子科	1
熊本工業大学応用科学	化学工学科	1
足利工業大学建築学科	建築科	2
金沢工業大学電子工学	電子科	1
いわき短期大学幼児教育	機械科	1
宮城高専建築(編入)	建築科	1
新潟工業短期大学システム	機械科	1
新潟工業短期大学自動車	機械科	1
郡山女子大学短期大学部食物栄養	化学工学科	2

平成10年度 進学希望内訳

10.1.31現在
()は女子内数

科	機械	電気	電子	情報	建築	環境	化工	小計	合計
大学	理工系 8	6	5	3	7(2)	3	1	33(2)	41(3)
	文化系 5	0	1	1	0	0	1(1)	8(1)	
短大	理工系 0	0	0	0	1(1)	0	1(1)	2(2)	4(3)
	文化系 0	0	0	0	0	1	1(1)	2(1)	
準大学校	0	0	0	0	1	0	0	1	86(10)
専門各種校	18	8	19	15(3)	5(2)	3	12(3)	80(8)	
県立高等技術専門学校	2(1)	0	1	0	0	1(1)	1	5(2)	
合計	33(1)	14	26	19(3)	14(5)	8(1)	17(6)	131(16)	

平成10年度 産業別内定状況

10.1.31現在
()は女子内数 男子/女子/不問

産業別	機械		電気		電子		情報		建築		環境		化工		合計	
	県内	県外	県内	県外	県内	県外	県内	県外	県内	県外	県内	県外	県内	県外	県内	県外
建設 09~11	1	10	2	3	2	1	0	6	1	16	0	1	0	38	6	
製造 12~34	20	7	14	3	7	2	13	1	1	0	3	1	29	6	87	20
電気ガス 36~39	1	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	5	1	
運輸通信 40~47	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	3	
卸・小売 49~60	3	2	1	1	1	0	0	0	1	0	1	3	1	8	6	
金融保険 61~67	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
サービス 72~96	0	0	4	3	0	2	1	0	0	1	2	1	2	1	8	6
公務	0	0	2	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0	3	2	
合計	25	11	34	12	11	4	16	2	7	3	19	4	37	8	149	44

公務員希望者数(当初)

()は女子内数

機械科	電気科	電子科	情報科	建築科	環境科	化工科	合計
1組	2組	1組	2組			1組	2組
0	3	3	2			1	0
			2				2
				3			
					0		
						1	
							2
							16

公務員内定内訳(延数)

()は女子内数 合格者数/受験者数

職種	一次合格者数	二次合格者数	最終合格者数
自衛隊2等 陸・海・空士	3(0)/16(0)		3(0)/16(0)
〃曹候補士	6(0)/15(0)	2(0)/6(0)	2(0)/15(0)
〃一般曹候補生	0(0)/9(0)		
都路村役場	0(0)/1(0)		
東京消防庁	0(0)/3(0)		
小野町役場	0(1)/1(1)		
警視庁	0(0)/2(0)		
福島県警	0(0)/3(0)		
郡山地区広域消防組合	1(0)/2(0)	1(0)/2(0)	1(0)/2(0)

平成9年度 基本金報告

1. 収入の部

項目	金額	備考
繰越金	5,434,518	
本年度基本金	0	
雑収入	13,452	分配金、利息
合計	5,447,970	

2. 支出の部

(雑収入へ繰入れ)

3. 残高

1,000,000円
 5,447,970 - 2,000,000
 = 3,447,970円
 ・中国ファンド 3,395,199円 (野村証券)
 ・定期預金 52,771円 (大東銀行)

平成9年度 会務報告

月日	行事名	内容等	場所
H9.4.9	入学式		学校
18	三役会	幹事会の打合せ	ホテルハマツ
25	幹事会	平成9年度総会について	ホテルハマツ
5.12	会計監査		学校
14	幹事会	平成9年度総会について	ホテルハマツ
6.7	平成8年度定期総会		ホテルハマツ
20	企業内支部情報誌発刊		
28	東京支部総会	会長以下3名出席	上野精軒
7.1	企業内支部連絡協議会		ホテルハマツ
4	日立支部総会	会長以下2名の出席	日立市
8.25	総会反省会	定期総会の反省会	ホテルハマツ
9.27	水戸支部総会	会長以下3名出席	水戸市
12.8	三役会	平成10年定期総会・会報発行・同総会入会式について	学校
H10.1.26	幹事会	平成10年定期総会・会報発行・同総会入会式について	ホテルハマツ
2.27	同窓会会報発行		
	同窓会入会式(全・定)	会長以下7名	学校
3.1	第20回卒業式	会長・副会長	学校

平成9年度 転入者一覧

全 日 制			
教科等	氏 名	教科等	氏 名
教 頭	八巻 茂雄	理 科	丹治 良徳
教 務 長	藤田 泰丞	英 語	渡辺 明子
社 会	木田 清人	事 務	朝倉伊知郎
化学工学	岸波 重幸	事 務	小林 美樹
電 気	達崎 守	事 務	熊田 一郎
電 気	郷 義光		
情報技術	菅野 昭夫		
化学工学	影山 清子		
理 科	荒井 茂雄		
音 楽	夏目 理香		
電 気	佐藤 孝則		
数 学	渡邊 喜充		
定 時 制			
工 業	小関 栄助	工 業	佐藤 文康
工 業	松浦 伸夫		

人事異動に伴う退職・転職者一覧

全 日 制			
教科等	氏 名	教科等	氏 名
教 頭	榎本 岩雄	化学工学	山口 賢子
教 務 長	吉田 敏明	社 会	山崎 尚一
電 気	遠藤 寿一	社 会	八幡 克磨
社 会	菊地由喜男	数 学	横田真由美
保健体育	佐藤 譲敬	理 科	小針 治
機 械	縫 裕訓	化学工学	野内 康平
機 械	新井 一郎	英 語	大越 静枝
電 気	高橋 健也	音 楽	高橋美紗子
化学工学	千葉 甲子	事 務	浅野 公生
電 気	斎藤 晴美	事 務	黒須 暁子
情報技術	佐藤 喜栄	事 務	栃窪 一郎
化学工学	滝川 雅子	理 科	菊地 喜作
定 時 制			
工 業	久家 克士	工 業	伊藤 友和
工 業	佐藤 文英	工 業	佐久間 暉

平成9年度新会員報告

全 日 制	
科	人 数
機 械 科	75名
電 気 科	74名
電 子 科	39名
情報技術科	37名
建 築 科	36名
化学工学科	39名
小 計	72名
定 時 制	
工 業 科	23名
小 計	23名
合 計	395名



赤井田造園土木株式会社

代表取締役 **赤井田 守 夫**

(39年度工業化学科卒)

本 社 〒962-0034 須賀川市一里塚95 TEL(0248)76-4171 FAX(0248)76-4173
 郡山支店 〒963-8015 郡山市綱沼町10-12 TEL(024)934-4321 FAX(024)934-4349
 福島営業所 〒960-2155 福島市上名倉字石沢内20-5 TEL(024)593-0246 FAX(024)593-0246
 会津営業所 〒966-0015 喜多方市関原町上高嶺字広面674-4 TEL(0241)23-0024



戸倉の里づくり畜舎(鮫川村)水車小屋

かいやくとう
明薬湯ふれあい温泉

東洋健康センター

迫力のある滝風呂登場!!

さらにパワーUPの12種類のお風呂

☆フットエステアカスリ指圧と健康パラダイス

郡山市喜久田町字松ヶ作15-1

TEL(024)959-4126(代) FAX(024)959-2600

本格中国料理

龍宮城

代表取締役社長 橋本 正喜
(昭和42年度機械科卒)

本店/郡山市安積4丁目38 TEL(024)946-3171
西ノ内店/郡山市西ノ内1-13-9 TEL(024)939-4649

●送迎バスもありますのでご相談下さい。

最新設備の工場で、より充実したメンテナンスをめざします。



民間車検場

教職員共済・全労災指定工場

株式会社 三善自動車工業

〒963-8061 福島県郡山市富久山町福原字中田14番地
☎(024)922-5088(代) FAX922-5625

●カーコンサルタント

Imakawa

株式会社 今川

代表取締役 今川 直彦 (昭和34年度機械科卒)

本社〒963-0111 郡山市安積町荒井東前田37-3 ☎(024)945-1623(代)
車検センター 郡山市安積町二丁目184-1 ☎(024)945-8300
成田工場 郡山市安積町成田字高田47 ☎(024)945-2478

弱電部品製造・精密金型製造・販売

株式会社 ザイン

代表取締役 鈴木 廣哉 (昭和40年度 機械科卒)

本社 〒963-8061福島県郡山市富久山町福原字前打57-1
TEL 024-934-0699
FAX 024-922-7403

財迎香港有限公司 香港九龍尖沙咀赫德道8號26樓C室
TEL 852-2314-3735 FAX 852-2314-3731

雁田財迎五金電子廠 廣東省東莞市鳳崗鎮雁田管理區
TEL 86-769-7770958,7770959 FAX86-769-7770948

火力発電プラント・ゴミ焼却装置
大型プラント専門企業

東陽工業株式会社

代表取締役社長 大塚 正博 (S30年度 機械科卒)
常務取締役 落合 弘 (S32年度 機械科卒)

本社工場 〒969-1205 安達郡白沢村和田字諏訪10
TEL0243(44)4307(代) FAX0243(44)4308

一級建築士事務所

古川 弘建築設計室

代表取締役 古川 弘
(昭和40年度建築科卒)

〒963-8831 郡山市七ッ池町18-8
TEL(024)925-5800 FAX(024)925-5840

事務局だより

〈一般寄付のお願い〉
昨年より会員の皆様方へ、一般寄付のお願いを致しましたところ、多数の皆様より賛同のご寄付を頂きました。会報の郵送料には、今年も多額の予算が必要とされます。つきましては、今後も、昨年同様下記口座にてお願い致します。

- 1.寄付金額 一口2,000円(一口以上)
- 2.送金方法 郵便振替
- 3.口座番号 18210 27420981
福島県立郡山北工業高等学校同窓会
会長 増子 久治

記入例

郵便振替電信振込依頼書
電信振込・払込書・電信振替払出書

60	口座・通帳記号	品別	番号(右詰めに記入)	金額	千	百	十	万	千	百	十	円
1	18210		27420981	金								
加入者名	福島県立郡山北工業高等学校同窓会 会長 増子 久治			料				備				
おと	(〒)			金				考				
とろ				出				考				
お				入				考				
な				入				考				
ま				印				考				

※ご寄付くださる会員の方は、卒業年度と科名を記入して下さい。

98年度寄付芳名簿

1 松井 佳吉 郡S31建	11 高原 三郎 郡S27機
2 箭内 邦夫 郡S38建	12 松岡徳五郎 (旧職員)
3 古桧山和男 郡S26機	13 古川 弘 郡S40建
4 八代 正雄 郡S34電	14 田中 良夫 郡S41機
5 宮地 勝徳 郡S40工化	15 西勝 貴之 北H8子
6 梅津美由紀 北H4建	16 井上 安邦 郡S40建
7 梅津 賢司 北H8機	17 村松 影治 郡S34電
8 矢口 光幸 郡S28機	18 村垣 陽子 北S56情
9 荒木 栄治 西S40電	19 野村 正直 郡S39工化
10 高橋 賢司 郡S31機	20 土田 政三 郡S40産電

21 佐藤 幸子 北S57工化	以上、30名の方より合計金額118,000円のご寄付がありました。誠に有難うございました。今後も口座を開設いたしますのでよろしくお願い致します。同姓同名者が複数ありまして、ご寄付頂きました方々のお名前が確定できず、カタカナ書きのご芳名が数件あります事を、お許しください。尽きましては、今後、振込み用紙の備考欄に、卒業年度と卒業学科を必ずご記入くださる様お願い致します。
22 鹿又 良治 (旧職員)	
23 樋口慎一郎 郡S26機	
24 荒木 勉 郡S36機	
25 渡辺 義人 北H7子	
26 フルカワケモツ 同姓同名者	
27 エンドウヒデアキ 複数のため	
28 サトウミツオ 確認できま	
29 ワタナベサトモ せん	
30 ワタナベヨウイチ	